

わたしの好きな よりの

No.155

今月号で皆さんにご紹介するのは、牟礼の県道赤浜小川線の道端にひっそりとたたずむ石仏「道祖神」です。道祖神は旅の神様、あるいは道の神様として信仰されたものが多く、村の入口や峠などに造立され、村に入ろうとする悪魔、疫病を追い払う神様としても信仰されています。

この道祖神は明和2年（1765年）の銘があり、埼玉県内では珍しい双体道祖神でもあるため町指定の文化財になっています。寄居町には、この道祖神を含め9基の道祖神が確認されていて、「道祖神」「道守護神」等の文字だけの文字塔が7基、牟礼のような像刻塔が2基あります。

このような道祖神をはじめとする石仏は、車で通過するとほとんど気付く



<路傍の石仏 道祖神>

ことはできませんが、車をおりて人の足で歩いていると自然と目に入ってきます。これからは暖かくなり、歩くのに良い季節になってきます。皆さんも路傍の石仏に会いにいてはいかがでしょうか。



わが町の 達人

地学の達人 No.24



町田明夫さん（折原上郷）

小さいころから、野山を駆け回ることが好きだった私にとって、鍾乳洞や地質に興味を持ったのは、ごく自然の成り行きだと思っています。小さいころは、大人の後について化石採りによく出かけました。

ある時、偶然に鍾乳洞を調査する機会に恵まれ、「こんなきれいな地下の真っ暗闇の空間が、いつごろ、どうやってできたのだろう」という素朴な疑

このコーナーは、「寄居生活学の達人」として町に登録をいただいている町民講師の方々を中心に、そのうちくや技術、体験などを町民の皆さんに紹介するコーナーです。

問をもちました。この疑問を解き明かしたいと思っているうちに、いつの間にか日本全国の鍾乳洞にもぐっていました。

心に残るものとしては、福島県にある「あぶくま鍾乳洞」発見時の調査と観光開発の援助、また、沖縄返還直後に水資源開発調査の一環として、沖縄本島を含む南西諸島の島々の鍾乳洞調査があります。ちなみに、埼玉県では約30個の鍾乳洞を調べました。この中に、三峯神社奥宮がある妙法ヶ岳の南斜面には、深さ約60m（およそ20階建ての高さに匹敵）の鍾乳洞があります。これは、日本でも比較的深い縦穴です。寄居町では岩根洞の他、2つの鍾乳洞が見つかっています。

寄居町は地質の宝庫で古生代の地層から中生代、新生代（第三紀、第四紀）のすべての地層があります。そのため、他の市町村と比べ岩石の種類や構造が複雑で、寄居町史（地学編）の調査にはたくさんの専門家が参加しました。町の生い立ちの一部を紹介しますと、カキや巻き貝・サメの歯などの化石や地層の様子から、温かい浅い海の時代があったことがわかりました。また、

その後、陸地になってからも荒川（当時、名前はついていない）は、河岸段丘の分布から、いろいろな所を流れていたことなどもわかりました。ある時期の荒川は、金尾峠を越えかんぼの宿付近や円良田湖、さらにトンボ公園を流れ下るように、大きく曲流していたこともあったのです。

こうしてみると、寄居町は地形や地質の変化に富み、その上に生活する動物や植物も大変豊富で自然豊かな町です。この自然豊かな町を誇りに思い、大切にしたいものです。



いりぬず 入水鍾乳洞（福島県）